

平成 28 年度第 1 回大船渡市総合教育会議会議録

1 日 時

平成 28 年 6 月 28 日（火） 午後 4 時 00 分から午後 4 時 55 分まで

2 場 所

大船渡市役所 第 1 会議室

3 出 席 者

（構成員） 市長 戸田公明、 教育委員長 千葉雅夫、 教育委員 鈴木千恵子、
同 熊谷ティ子、 同 谷地 保、教育長 今野洋二

（事務局） 企画政策部長 木川田大典、生活福祉部長 伏木崇人
教育次長 志田努、生涯学習課長 江刺雄輝、同補佐 佐藤淳、伊藤公男
学校教育課長 千田晃一、同補佐 村上佳之
中央公民館長 鈴木一司、同係長 藤原明美
市立博物館長 小松伸也、同補佐 村上和枝
北部学校給食センター所長補佐 古水隼人

3 協 議

（1）大船渡市の教育の振興に関する施策の大綱の改訂について

4 意見交換

- （1）少子化の進行を踏まえた今後の学校施設のあり方
- （2）地区公民館を中心とした地域づくりの現状と課題

6 会議の概要

○開会

（教育次長）本日はお忙しい中、皆様にはご足労いただきましてありがとうございます。

ただいまから、平成 28 年度第 1 回大船渡市総合教育会議を開会いたします。

進行は、私、教育次長の志田が務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、市長からごあいさつ申し上げます。

○市長あいさつ

（市長）教育委員の皆様には、ご多用のところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

日ごろ、当市の教育行政の推進に対し、格別のご尽力を賜っておりますことに、心から

感謝申し上げます。

震災から5年3ヵ月余が経過し、当市の復興まちづくりは、一層本格化してきております。

教育分野におきましては、秋から冬にかけて、被災3校の移転新築工事がそれぞれ完成いたしますし、市民体育館の耐震化・空調設備改修工事につきましても、今年度の完成を目指し、所要の手続きを進めており、市の教育環境の着実な改善が図られる見通しであります。

これもひとえに、皆様方のご理解とご協力の賜物であり、重ねて感謝申し上げる次第であります。

さて、本日の総合教育会議は、前年度に策定いたしました「教育大綱」の改訂をはじめ、当市の教育に関わる課題2件につきまして、皆様と親しく意見を交わし、今後の取組に活かして参りたいと考えております。

短い時間ではありますが、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、あいさつといたします。

○協議

(教育次長) 続きまして、次第3、協議に移ります。

(1)「大船渡市の教育振興に関する施策の大綱の改訂について」、事務局からご説明いたします。

(生涯学習課長)

別添資料により説明

(教育次長) ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見をお願いいたします。

(千葉) 大変分かりやすい表現となっていると思います。細かな配慮の行き届いており、市の計画や中教審等も踏まえた内容となっており、大変な労作です。

特に、重点的な取組の中で、子供たちが育むべき総合的な力、学校より家庭を先に記載している点に、大変な配慮が見られます。

次に、心の教育の面ですが、地域の構成員としての力が挙げられています。今、様々な点で地縁社会との意識が薄れていく中で、この文言についても賛意を表します。

そして、かつて高度経済成長期には、せっかく育てた人材が首都圏・都市部に流出してしまうという実態がありましたが、そういう中で、地方創生に資する人材を育てることに言及しており、市民にとっても大変分かりやすく、親しみやすい大綱であると感じました。

(鈴木) 委員長のお話のとおりだと感じながら聞かせていただきました。一つお聞きしますが、この会議以降、どのような手続きを踏み、いつごろ市民に公表するのですか。

(生涯学習課長) 現状の大綱は、新しい総合計画の策定後、改訂することとしています。既に新しい総合計画が策定されておりますので、本日の総合教育会議でいただいた意見を踏まえて修正を加え、市長決裁により大綱を策定し、できるだけ早期に市民に公表します。

(熊谷) 今は、以前より家庭の絆が希薄になっているので、家庭と学校の関係に言及している点がよいと思います。

(谷地) 大綱の内容に関しては、記載のとおりであると思います。教育とは直接関係がないかもしれませんが、民間の立場からご意見を申し上げますと、小さい町の人づくりには、産学官の連携が欠かせません。そのため、教育関係者以外の方々ともいっしょに取り組まないと、人口を増やすといった観点からも難しいと考えます。大人が安心して働ける場、魅力的な職場がなければ、結局は働く場を求めて外に出てしまう。大綱とは直接関係ないかもしれませんが、そのようなことの理解も深めていく必要があると感じました。

(教育長) 分かりやすい言葉で簡潔に書かれた大綱だと感じました。大局的な視点から大事なところをとらえているし、市の方向性との合致をかなり意識した内容となっていると思います。

(市長) 大まかな話になるかもしれませんが、子供たちの生きる力を育むことについて、わたくしの意見を申し述べてみます。皆さんも新聞等でご覧になったかと思いますが、欧米、韓国、中国、日本の中高生の未来に対する思いを比べてみると、日本の子供たちの未来に対する思いが少し弱いようです。心が弱くなっているのではないかと思います。そういう点で、生きる力を育むことは大切だと思っています。

2番目の重点項目についてですが、我々の社会は高齢者の割合が増え、それを支える人々の割合がどんどん減り、1.7人が1人の高齢者を支えています。これからますます厳しくなることは間違いありません。そういう時代には、共に思いやり、共に地域を創っていく気持ちが非常に大事になるので、国でも地域包括ケアという考え方で取り組んでいるし、市でも、地域助け合い協議会を各所に設置するなど、様々取り組んでいます。そういう時代に入っています。

3番目の地方創生に資する創造的な人材の育成については、全国の自治体が「まち・ひと・しごと総合戦略」に取り組んでいます。バブル経済がはじけ、日本経済を元気にしようといろいろな政策を取ってきたものの、うまく行かずその都度借金が増えていきました。石破地方創生担当大臣は、「今回は国もこれが最後のつもりで取り組んでおり、地方もその決意を持って取り組んでほしい」と話しています。私もそのようにがんばるつもりであり、地方創生に資する人材育成は、大事なことだと思っています。

(教育次長) ご協議、ありがとうございました。また、大綱案に賛意を示していただき、ありがとうございました。以後、市長が最終的に決定する手続きを踏みたいと存じます。

(鈴木) すみません。一点、お願いします。サブタイトルに「三陸の地に輝き躍動するまち 大船渡をめざして」などといったようなものを加えてはいかがでしょうか。

(教育次長) ありがとうございます。それではその件につきましては、事務局で検討させていただき、市長と調整のうえ決定の手続きをいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○意見交換

(教育次長) 続きまして、意見交換であります。この意見交換につきましては、この会議で何らかの意思決定をお願いするものではなく、市長と教育委員の皆様とで、教育に関する諸課題につきまして、共通認識を得たいとの趣旨でありますので、よろしくご理解をお願いいたします。

それでは(1)「少子化の進行をふまえた今後の学校施設のあり方について」、事務局からご説明いたします。

(生涯学習課長) 別添資料により説明

(教育次長) それでは、ただいまの説明に対しまして、ご意見、ご質問をお願いいたします。

(千葉) 先ほど、建設中の越喜来小学校、赤崎小学校、赤崎中学校の建設現場を見学してきましたが、現在作っている学校の教室は、1学年何人を想定して設計していますか。

(生学 伊藤) 赤崎小学校と越喜来小学校は1クラス30人で、普通教室は1学年1クラスを想定しています。赤崎中学校も1クラス30人で、1学年2クラスずつ取れるようにしています。

(教育長) 以前の建築と違い、スペースのゆとりがあり、教室のみならず多様な学習活動ができるような仕組みになっているのが、現在の学校の特徴です。

(市長) われわれが小・中学校時代を過ごした単調な校舎とは違って、いろいろな機能があります。

(熊谷) 新しい学校は、地域の関係者だけでなく、広く市民の皆さんにも見ていただく機会があってもよいのではないかと感じました。

(市長) 最近の建築設計の進歩、あるいは国の政策の進歩が反映された校舎なので、その価値はあると思います。

(千葉) だいぶ古い校舎もあるようですが、全ての校舎は耐震化工事が為されていますか。

(生学 伊藤) 学校統合が決まっている蛸ノ浦小学校以外の対象校については、全て、現在耐震化工事を行っており、今年度末には耐震化率が 100%となる予定です。

(熊谷) 例えば、築 57 年の越喜来中学校は、耐震化することにより、どのくらい長く使えるようになりますか。

(生学 伊藤) 鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数は、60 年といわれていますが、耐震化工事により、その構造体の耐用年数がどれほど伸びるかは、算定が難しいです。構造体以外の設備が老朽化したり、屋根が雨漏りしたりすることもあります。校舎の耐用年数の見極めは、今後の課題だと考えています。

(市長) 鉄筋コンクリート造だと 100 年は持つとしても、建設当時のプランや配置がわれわれの感性に合わなくなるということがあります。100 年持たせるには、その間に 2～3 回大きな改修が必要となります。今、やっている耐震改修もその一つです。

(教育長) 校舎本体にはあまり劣化がない場合でも、屋根の鋼板などは定期的に改修していく必要があるのでしょうか。

(市長) そのとおりです。

(鈴木) 建築現場視察の際に感じたのですが、あの新しい越喜来小学校を卒業した子供たちが越喜来中学校に進学した際、あまりに違いすぎて学校生活がしにくいのではないかと心配になりました。

(市長) 児童・生徒数の推移に関して、いくつかわたくしの意見を申し述べたいと思います。

今日の資料には、7 年間の児童・生徒数の予測が示されていますが、今年生まれた子供たちが中学生になるあたりまでの 12 年スパンで予測すれば、もう少しはっきりと実態が見えてくるのではないのでしょうか。

大震災前までは、生まれてくる子供たちの数は減っていましたが、大震災後にそれが止まった、あるいは少し上向き加減になったようです。そういうことも踏まえて予測してほしいと思います。

中学校は、第一中学校と大船渡中学校を除き、いずれも1学年1学級となっています。これらの学校は、このままでは生き残れないことになります。末崎中学校と大船渡中学校、日頃市中学校と第一中学校、綾里中学校と赤崎中学校。そのような組み合わせになるのではないのでしょうか。越喜来中学校については、吉浜中学校といっしょになるか、あるいは吉浜中学校と越喜来中学校を第一中学校と組み合わせるか。そういう判断が問われてきます。そのあたりは、児童生徒数をしっかりと予測したうえで、じっくり考えていく必要があります。

今後、校舎の更新計画と併せ、一番情報を持っている教育委員会が案を作成し、市民に示していくことが大切だと思います。

(谷地) クラスや学年は多いほうがいいのかというのが、保護者の一般的な考えだと思います。市民の多くが、今市長が示した方向性と同様に考えていると思っています。

(教育次長) (1) についてはこれまでとさせていただき、(2) に移らせていただきます。

(2) 地区公民館を中心とした地域づくりの現状と課題

(教育次長) それでは、事務局から説明いたします。

(生学課長) 別添資料により説明

(教育次長) このことにつきまして、ご質問・ご意見をお願いいたします。

(千葉) まさにここに書いてあるとおりだと思います。わたくしの地元の猪川地区公民館の館長も、退職して悠々自適の生活をしていたところ、「地域のために何とかお願いしたい」と乞われて館長になったものの、忙しくて大変だそうです。後任の主事がなかなか決まらないということも聞いています。何か支援ができないものかと考えていますが、地区の公民館活動を支える方々も高齢化しているので、活性化のために何とか若い人たちの参画を得たいと思っていますところでは。

(鈴木) 公民館長はじめ、役員の皆さんが様々な行事や多くの仕事をこなしておられ、体力的にも大変だろうと思います。ボランティア精神だけでは確かに難しいです。なんとか手

を打たないとみんなが困ることになりますので、若い人を巻き込んでいくことが大切だと思います。

（谷地）普段何も考えずに公民館を使用していただけに、今回、はじめてこのような実態を知り、大変勉強になりました。

（熊谷）公民館長を選出する運営委員会でも、なかなか手がなく、後任者が決まらないという話を聞きます。後任がないので、しかたなく現職が再任、ということもあるそうです。

様々な団体に対しても市からの要請が多くなっていますが、対応できないことが多くなっているようです。

（教育長）これは、難しい問題だと思います。県内では市民センターに移行する例もあると聞いていますが、移行によって新たな問題も出ているようです。センター化によって、地域の中核的社会教育機関としての地区公民館機能が低下すると聞きます。そうした様々なことを考えながら検討していかなければ、社会教育が衰退していくと思います。これからはますます社会教育が大切になってくるので、このような課題をどう解決していくのか、みんなで慎重に考えていくことが必要だと思います。

（市長）高齢化が進む中で、現状の体制で公民館を維持していくのは難しいと考えています。今後、公民館がさまざまな拠点機能を発揮するために、どういう組織体制を取っていったらよいか、検討していく必要があります。

また、ボランティアベースでは、もう、公民館職員のなり手がいないというのも、そのとおりだと思います。市の制度として、若い人たちを公民館に配置できるよう、取り組んでいくことも必要だろうと思います。

公民館制度が創設された時代とは社会情勢が大きく変わってしまい、今の時代に合わなくなって、制度疲労を起こしている状態なのだろうと思います。新しい時代に向けて改革することが大事ですので、今後、関係者と議論を重ね、数年間をかけて方向性を見出して参りたいと考えます。

（教育次長）ありがとうございました。予定の時刻となりましたので、意見交換は以上とさせていただきます。ただいまお話しいただいた2つの件は、非常に重要な課題でありますので、今後、市長部局と教育委員会が連携しながら、様々なチャンネルを通じて検討・協議を重ねて参りたいと存じます。

以上をもって、平成28年度第1回大船渡市総合教育会議を終了いたします。